

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2191100094		
法人名	有限会社 望仙樓		
事業所名	グループホーム さくらの杜 (ユニット:さくら通り)		
所在地	岐阜県多治見市上町4丁目46の7		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	令和5年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年3月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者が、落ち着いて生活がして行けるよう、一日の中で何か満足感が感じていただけるよう、ご利用者一人一人の「その人らしく」を支援していただけるケアの充実に努めることを目指しています。又、地域密着施設であることを意識し、近隣の高齢者や住民の方に、親しみをもって頂ける施設を目指し、お茶のみ所や、趣味の発表の場、交流の場、相談できる場として、気軽にお立ち寄りいただき、気楽にお過ごしいただけるようになるように目指しています。また、隣接した小規模多機能型居宅介護施設のご利用者とも交流を持つことで、在宅で生活されてみえる方の生活や、情報をご自分たちの事のように楽しんで見えます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

※コロナ感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査を実施した。コロナ禍によって、様々な取組みに支障が出ている。地域との交流は、地域の行事が軒並み中止となるなど、参加することを楽しみにしていた利用者の思いが消されてしまった。馴染みの人や場所の支援も中断している。ドライブや企画外出等の外出支援も自粛中である。そのような中ではあるが、昨年度は中止した恒例のクリスマス会を、今年度は「ほっとかふえ」と形を変えて開催した。久々の対面に、利用者と家族がひと時の団欒を楽しんだ。地域に愛されたホームであり、近隣からは野菜の届け物がある。地域に報いようと、来年度は町内会の副区長(公民館・館長を兼務)を引き受けた。利用者の出番もありそうである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や、運営方針を作り、毎朝唱和し、スタッフ全員で共有し意識の定着を図り、実践につながるよう努力を続けている。毎月フロア毎に目標を作り、こちらも運営理念・方針とともに毎朝唱和し、月の終わりには評価し、翌月の目標の作成につなげている。	利用者が、地域の中で「その人らしく」暮らし続けられるよう、毎朝、理念の唱和を行っている。ホームは地域に愛され、地域密着度は高い。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により、地域の行事も中止、外出も近所の神社まで、人がいないときにとり、交流がない。皆さん高齢者介護施設ということで、心配はしてくださっている。	コロナ禍によって地域交流が途切れているが、近隣からは継続して野菜の届け物がある。町内会に加入しており、次年度は副区長(公民館・館長を兼務)を務めることとなった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、家族を含め外部の方を招いての行事は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の書面開催。	市の方針に従い、運営推進会議はすべて書面開催となっている。ホームの状況を報告書にまとめ、市役所、地域包括支援センター、町内会長、区長等に送付している。	運営推進会議の目的の一つに、「地域の情報収集」がある。会議メンバーから返信をもらう工夫を願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡は取りあっているが、相談をする機会も認知症でお困りになっている方等の相談支援の機会も減っている。多治見市の主催で、地域密着型サービスの事業所意見交換会もコロナ禍で中止になっている。今年度は、小規模多機能の実地指導の年だったため、小規模多機能だけでなく、GHの現状や、コロナ感染による他の施設のクラスター対応などの情報が直接聞くことが出来た。	毎月、市から提供されるコロナ対応備品(マスク、消毒液等)を受け取るために、市役所を訪問している。その際には、担当者と意見交換をしている。市の地域密着型サービス事業所の意見交換会(Web開催)に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内が、回廊として活動できる環境があり、利用者は自由に散歩や、徘徊ができるので、特に玄関の施錠なく、生活して頂ける。玄関から駐車場に目的を持って出しまわれる方がみえるが、声掛け付き添いで一緒に出かけ、目的を達してくる。虐待防止・身体拘束廃止委員会を設置。研修も定期的に行っている。	毎月、月末にリーダー会議が開催されており、その内の2月、5月、8月、11月は同じメンバーで身体拘束廃止委員会を開いている。病院で身体拘束されている利用者の入居が決定し、身体拘束をしない支援を話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等にいつでも目を通せるように、スタッフルームに準備してある。全体会議の際、虐待についての研修の回数を増加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の小規模多機能のご利用者、当ホームのご利用者、入所希望の方等、成年後見制度利用者の案件が増えているため、勉強会を行った。成年後見人がついて見える方が、GHに入所されている、それに伴いわからないことや不明なことが、成年後見センターに質問相談しやすくなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、ご家族の心配や悩み、不安等の対応に心掛けて、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、面会は一部制限させていただいている。ご家族も遠慮されているが、年が明けてから徐々に増えてきた。時々電話での様子の確認報告を行っている。12月に一時コロナが治まっていた時期に、2日間予約制で、お互い家族の顔がみれて『ほっとかふえ』を開催、久しぶりにお茶やお菓子を食べながら、ご家族で30分間ではあったが、過ごしていただいた。又その際、管理者とご家族がお話ができた時間を設け、ご利用者によっては、今後の方針等を決定した。	コロナウイルスへの感染防止策を徹底し、これまでに利用者、職員共に感染者を出していない。家族の面会に関しては、現在、玄関での窓越し面会を認めている。クリスマス会(昨年度は中止)に替え、「ほっとかふえ」を開催し、利用者と家族が団欒のひと時を過ごした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議や全体会にて、意見交換を行い、又、カンファレンス開催時の意見等にも留意している。	月末のリーダー会議の後を受け、毎月1日に全体会議が開催される。その後にユニット会議が開かれ、職員が意見交換している。パート職員を含め、全員参加が原則である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ職員が負担なく勤められるよう。夜勤、労働日数、曜日などでできる限り考慮し、また、他の職員の理解もあったため、対応している最中である。が、今年はお子さんたちの学校、保育園等でコロナ感染、クラスターが起こり、お子さん、お孫さんをみるための急なお休みが重なった。なかなか落ち着かない予定の立てられない年であった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットリーダーに、指示権限と責任を持たせ、リーダーとしての学習会を行い、その他の職員には、ホーム内外での研修や講習の場に参加する機会を設け学習し、介護の質を高めるように努めている。キャリア段位制度導入をしたが、積極手に段位を取ろうというスタッフがいない。今年度3人の新人介護未経験者の入職があった。リーダー管理者を中心に、みんなで現在育てている最中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年末にコロナが少し収束した時期に、他の小規模多機能とGHをやってみえるところの管理者さん等が大幅に入れ替わったということで、挨拶がてらの情報交換の場を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の全てに気づくことで、ご本人の不安や訴えに耳を傾け、寄り添うことで、安心できる環境関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。が、コロナ過で入所されたご家族の中には、神奈川県等遠方の方が見え、信頼関係を今までのように築いている感触がない。 又、コロナ以前は、「ご家族の時間が許すなら、頻回に顔を合わせに来ていただいて構いません。それが、ここにも家族の顔が見れるんだという安心につながりますので」とご家族が顔を見せたいいただくことを推奨していたのだが、現在それができないため、ご利用者のストレスも心配であるとともに、我々スタッフにとってもストレスになっているのを感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態、生活歴、病歴を中心にしっかりとアセスメントし、初期の支援内容に生かすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に支え合う一員、仲間として、協力し合いながら、日々の支援を行っていくのが、通常の様子だが、コロナ過でご家族の顔が見えないのは、事業所スタッフとしても不安要素である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、お出かけもできず、ボランティアさんの受け入れもしていない、時々見えていたご近所さんが来所されることもないため、このまま今までの繋がりが消えてしまいそうで不安ではある。又、このコロナでの地域の行事の中止が、今後コロナが明けて行事を再開するか、担い手不足の為、このまま終了してしまうかという議論になっている。地域の方に混ざって顔を合わせる機会が失われる可能性があることも不安。	コロナ禍により、馴染みの人や場所の支援が中断している。自ら年賀状を書ける利用者は少ないが、職員が宛名書き等を手伝って出状している。常にホームを気にかけてくれている近隣の方から、採れたての野菜が届く。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯、掃除、調理など、日々の活動の中や、レクをとおして、関係性を把握し、協力し合いながら、良好なコミュニケーションが図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小規模多機能居宅介護施設をご利用いただき、継続してケアをさせていただいているケースも有る。また退所後のご家族のご相談にも応じている。中には、遺影の為に、写真データが欲しいと、お忙しい中足を運ばれる方もみえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し、日々の生活の支援に努めている。が、帰宅願望がみられたとき、なかなか敷地外まで、連れていって差し上げることができない。	足腰を衰えさせないために、自ら歩行訓練を申し出る利用者がある。積極的にホーム内を歩き回っており、後を付いて回る利用者も出てきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴など聞き取りをし、その人らしく生活して頂けるよう支援している。夕食時、梅酒をグラス1杯飲まれるのが習慣の方がみえそれを当ホームでも継続するケースもあった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しバイタルチェック等をし、把握するよう努めている。又、趣味や本人のしたい事を大切にゆったりした生活の支援に努めている。が、活動範囲が狭まっているため、下肢筋力低下と体重増加が課題になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを開催し、利用者ができる事出来そうな事、支援する事を意識して、サービス提供が出来るように話し合っている。又、改善が必要状況の変化があったときは、その都度NS、リーダーを含めたカンファレンスを実施している。	短期6ヶ月、長期1年の目標を設定し、介護計画を作成している。定期的見直しの他、医療行為が必要になった時や、これまでできていたことができなくなった時にも介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングを行い、スタッフ全員、統一意識で支援できるよう、見直し等に生かしている。又、各書式の見直しをしより統一のしやすい使える書式の作成へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状態やご家族の状況に応じて、ご本人サイドで臨機応変に対応し、自由で、その人らしく、あたりまえの生活をして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、近所のスーパーに買い物、喫茶店など行くなどし、楽しみの支援に努め、又、地域ボランティアの方による、傾聴支援や近隣の大正琴の先生や生徒さんとの交流行っていたが、現在は、できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医の受診はもちろんのこと、月に2回、連携している、医師の往診を受けている。時には、ご家族と直接お話をさせていただき、今後の方針を立てることも増えてきた。老衰のご利用者様の最後、指示と対応させていただき、落ち着いて看取ることができた。コロナワクチン接種も、ご利用者スタッフ共に計画的に行うことが出来た。	ホーム協力医が月に2回訪問診療に訪れている。歯科の往診は、市の歯科医師会と訪問歯科協会の2機関が対応している。急を要さない専門科への通院受診は家族対応が原則であるが、コロナの感染状況によっては、ホーム対応となることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日、看護師が勤務しており、ご利用者の体調管理や薬の管理をしながら、指導等を適宜もっている。又、体調不良者が出たときは、急遽出勤をして頂いたり、一時的に点滴が必要であった場合にも対応してもらっている。褥瘡の処置のため、看護師2人が連携して処置にあたってくれた。看取りの兆候が出た時点で連絡し、駆けつけてもらった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の生活相談員と連携を取り、情報収集に努め、退院後の対応を十分に取れる様取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしない方針であるが、継続的医療行為がなければ、Dr.、NS、家族との連携のもと、事業所で出来ることを十分に説明しながら、当ホームで最後を迎えられる方もみえる。だが、長期的に酸素、点滴など医療面にて対応が困難場合、又はその可能性が近い未来に高い場合、Dr.ご家族とも話し合い、対応可能な施設へ移っていただく判断をせざるおえない。	利用者、家族に、ホームでの看取りはしない方針が伝えてあるが、結果として看取りとなった事例はある。重度化に伴い、家族に協力医の病院へ出向いてもらい、担当医師が直接、利用者の病状や今後の進め方を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習等に、全員参加することや、マニュアル等を使い訓練している。当ホームも11年目を迎え、救急搬送する機会が増え、過去には、心停止をされたが、心肺蘇生法を行い、一時的に呼吸が戻り、救急搬送していただき、ご家族が病院についてから、息を引き取られるケースもあった。非常に残念な結果にはなってしまったが、これも、日頃から真剣に取り組んできた結果であったと思う。ただし、蘇生に至らずなくなったケースも発生したため、直面した職員のケアが今後の課題となる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は、防災訓練等に近隣地域の方に声かけをし、一緒に参加して頂き、ご協力とご理解を得ていたが、現在はできていない。 職員訓練や研修は行っているが、BCPはできていない、現在検討しながら作成中。	ホームは高台の頂上部に立地することから、水害の心配はない。ただ、ホームに続く道路が崩れる心配があり、その場合は車での往来が遮断される。それらを想定して、防災訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や、羞恥心に配慮した声かけを常に心掛け、月毎にユニットごとにスローガンをかけ、実践している。また、新人など声掛けの出来無い者にもその都度、理解してもらうため話し合っている。が、ご利用者の中には、他の方を傷つける言動を、「それが常識でしょ」という形で行ってしまわれる方もみえる。我々はすべてを肯定的に受け入れるわけにはいかないことがある。その際、その方との信頼関係を崩さない、声掛け、対応を模索している。	利用者のプライバシーや権利擁護に配慮するとともに、職員が「虐待の芽チェックリスト」を使って自らの支援を振り返っている。男性職員が3名いるが、入浴や排泄時の異性介助の問題は起こっていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前にやられていた事、得意な事など、100の気づきシートを元に、支援出来ることを見つけ、ご本人サイドで働きかけている。ただ、今までで出来ていたことが、できなくなってきてしまった方が増えてきている。傾聴し少しでも心に寄り添うことで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のご様子や発言に耳を傾け、ご利用者サイドで楽しんで頂けるよう支援している。また他の利用者様からも、その人らしさが傷つけられないよう、テーブルの位置、作業の位置、作業内容、活動時間をご本人たちな悟られないよう対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自分で髪留め等、おしゃれしてリビングに出てこられたり、入浴後や洗面後に化粧水や、乳液にておしゃれをしてみえる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から、進んでお手伝いをして下さり、談笑しながら、出来る事を無理なく、楽しく参加して頂いている。好き嫌いを把握し、場合によってはその方だけ一品差し替えるなどし、好き嫌いの話題も楽しくお話していただく空気を作る。	食材は外部発注であるが、職員が手を加えて食事を提供している。昼食を弁当箱に詰め、ウッドデッキの中庭で昼食会を行うこともある。外食には出掛けていない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月2回の体重測定や、毎回、排泄表などを利用して水分量をチェックする事で、その方の身体状況に応じた対応に努めている。一時的であれば、NSが点滴の対応もしている。食事形態も、固定することなく、できるだけおいしくて食べていただくことと、嚥下機能とのバランスを取りながら行っている。又、食事の保温機などはないため、おかずはあまり早く盛り付けすぎないようにし、お味噌汁は、配膳直前によそい、温かい状態で提供することがルールとなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所まで、自己にて実施されるように見守り、個別に、見守りや確認、磨きなおしを行っている。又、口腔内の洗浄液や、洗浄器なども使用し、毎食後の口腔ケアの徹底している。必要に応じ訪問歯科に入っていたいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで過ごせる事を基本に、それぞれにあった物を提案し、排泄パターンの把握から、声かけを行い促している。	半数近くが布パンツの着用であるが、高齢化とともに徐々にリハパンやパッドの利用者が増えてきた。トイレでの排泄を基本とし、昼間は全利用者がトイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療のアドバイスを元に、朝、夕、カスピ海ヨーグルトや、牛乳、センナ茶、カフェオレ、オリゴ糖等の提供を毎日、時間を決め行っている。できるだけ、下剤等は利用したくないが、利用者に合わせ、Dr.と相談しながら薬も利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望があれば、夜間入浴や、お友達と一緒に入浴等、支援しているが、現在、特に個別で希望する方がみえない。入浴拒否をするケースも、減ってきている。	週に3回の入浴を基本として支援している。入浴拒否があり、孫(他法人で介護業務に従事)が来ないと入浴しなかった利用者が、他の利用者と一緒に入浴できるようになり、今は一人で入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室にて自由に休息したり昼寝したり読書されておられ、又、時には足浴機の活用で気持ち良く眠れるように支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、服薬の資料が配布されており、フロアーやスタッフルーム等常時確認ができ、服薬時には、ダブルチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、あみもの、カラオケ、台所や洗濯等のお手伝い、テーブルに飾る花瓶に挿す花摘みの散歩、花瓶の毎日の水替えなど、楽しくやって頂く事で気分転換となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、外食、など、気分転換となる、外出行事の提供、又、お盆などお墓参り等、家族と連携した外出、今年度は行っていない。近所の神明神社に行く程度。	コロナ禍によって、ドライブや企画外出等はすべて自粛し、隣の神社までの散歩を日課としている。神社には人気(ひとけ)がなく、気分転換にはうってつけである。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出をしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら、電話を使用したり、手紙を書いたり、時には、声かけで促したり、お手伝いさせて頂いて、ご希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とホール、又、カフェテラスを作り、団欒できる、スペースづくりをしているので、自由にその人が自己に合わせた、生活を自ら楽しんで頂くことができる。また、一人になれるスペースも作っている。	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに仲良しで一緒に座ったり、カフェテラスにて、日向ぼっこをしながら、談笑してみえる。ユニット間を行き来できるようにしている。また、他の方から死角になるような一人になれるスペースも作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、ご本人が愛用されていた家具等を使い、ご要望に添い、安全面と介護面から見たアドバイスにてレイアウトし、穏やかな生活が出来るように工夫している。	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置や、段差の解消を図り、案内表示などを作成して、自立した生活ができるように配慮している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100094		
法人名	有限会社 望仙樓		
事業所名	グループホーム さくらの杜 (ユニット:たちばな通り)		
所在地	岐阜県多治見市上町4丁目46の7		
自己評価作成日	令和4年3月11日	評価結果市町村受理日	令和5年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、落ち着いて生活がして行けるよう、一日の中で何か満足感が感じていただけるよう、ご利用者お一人お一人の「その人らしく」を支援していけるケアの充実に努めることを目指しています。又、地域密着施設であることを意識し、近隣の高齢者や住民の方に、親しみをもって頂ける施設を目指し、お茶のみ所や、趣味の発表の場、交流の場、相談できる場として、気軽にお立ち寄りいただき、気楽にお過ごしいただけるようになるように目指しています。また、隣接した小規模多機能型居宅介護施設のご利用者とも交流を持つことで、在宅で生活されてみえる方の生活や、情報をご自分たちの事のように楽しんで見えます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191100094-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和4年3月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や、運営方針を作り、毎朝唱和し、スタッフ全員で共有し意識の定着を図り、実践につながるよう努力を続けている。毎月フロア毎に目標を作り、こちらも運営理念・方針とともに毎朝唱和し、月の終わりには評価し、翌月の目標の作成につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ過により、地域の行事も中止、外出も近所の神社まで、人がいないときにという形で、交流がない。皆さん高齢者介護施設ということで、心配はしてくださっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は、家族を含め外部の方を招いての行事は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の書面開催。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡は取りあっているが、相談をする機会も認知症でお困りになっている方等の相談支援支援の機会も減っている。 多治見市の主催で、地域密着型サービスの事業所意見交換会もコロナ過で中止になっている。 今年度は、小規模多機能の実地指導の年だったため、小規模多機能だけでなく、GHの現状や、コロナ感染による他の施設のクラスター対応などの情報が直接聞くことが出来た。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内が、回廊として活動できる環境があり、利用者は自由に散歩や、徘徊ができるので、特に玄関の施錠なく、生活して頂ける。 玄関から駐車場に目的を持って出してしまう方がみえるが、声掛け付き添いにて一緒に出かけ、目的を達してくる。虐待防止・身体拘束廃止委員会」を設置。研修も定期的に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等にいつでも目を通せるように、スタッフルームに準備してある。 全体会議の際、虐待についての研修の回数が増加。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設の小規模多機能のご利用者、当ホームのご利用者、入所希望の方等、成年後見制度利用者の案件が増えているため、勉強会を行った。 成年後見人がついて見える方が、GHに入所されている、それに伴いわからないことや不明なことが、成年後見センターに質問相談しやすくなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、ご家族の心配や悩み、不安等の対応に心掛けて、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、面会は一部制限させていただいている。ご家族も遠慮されているが、年が明けてから徐々に増えてきた。時々電話での様子の確認報告を行っている。12月に一時コロナが治まっていた時期に、2日間予約制で、お互い家族の顔がみれて『ほっとかふえ』を開催、久しぶりにお茶やお菓子を食べながら、ご家族で30分間ではあったが、過ごしていただいた。又その際、管理者とご家族がお話ができた時間を設け、ご利用者によっては、今後の方針等を決定した。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議や全体会にて、意見交換を行い、又、カンファレンス開催時の意見等にも留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ職員が負担なく勤められるよう。夜勤、労働日数、曜日などでできる限り考慮し、また、他の職員の理解もあったため、対応している最中である。が、今年はお子さんたちの学校、保育園等でコロナ感染、クラスターが起り、お子さん、お孫さんをみるための急なお休みが重なった。なかなか落ち着かない予定の立てられない年であった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットリーダーに、指示権限と責任を持たせ、リーダーとしての学習会を行い、その他の職員には、ホーム内外での研修や講習の場に参加する機会を設け学習し、介護の質を高めるように努めている。キャリア段位制度導入をしたが、積極的に段位を取ろうというスタッフがいない。 今年度3人の新人介護未経験者の入職があった。リーダー-管理者を中心に、みんなで現在育てている最中である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年末にコロナが少し収束した時期に、他の小規模多機能とGHをやってみえるところの管理者さん等が大幅に入れ替わったということで、挨拶がてらの情報交換の場を設けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の全てに気づくことで、ご本人の不安や訴えに耳を傾け、寄り添うことで、安心できる環境関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようにし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。が、コロナ過で入所されたご家族の中には、神奈川県等遠方の方が見え、信頼関係を今までのように築いている感触がない。 又、コロナ以前は、「ご家族の時間が許すなら、頻回に顔を合わせに来ていただいていた構いません。それが、ここにも家族の顔が見れるんだという安心につながりますので」とご家族が顔を見せたいと推奨していたのだが、現在それができないため、ご利用者のストレスも心配であるとともに、我々スタッフにとってもストレスになっているのを感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようにし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態、生活歴、病歴を中心にしっかりとアセスメントし、初期の支援内容に生かすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に支え合う一員、仲間として、協力し合いながら、日々の支援を行っているのが、通常の様子だが、コロナ過でご家族の顔が見えないのは、事業所スタッフとしても不安要素である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、お出かけもできず、ボランティアさんの受け入れもしていない、時々見えていたご近所さんが来所されることもないため、このまま今までの繋がりが消えてしまいうそで不安ではある。 又、このコロナでの地域の行事の中止が、今後コロナが明けて行事を再開するか、担い手不足の為、このまま終了してしまうかという議論になっている。地域の方に混ざって顔を合わせる機会が失われる可能性があることも不安。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯、掃除、調理など、日々の活動の中や、レクをとおして、関係性を把握し、協力し合いながら、良好なコミュニケーションが図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	小規模多機能居宅介護施設をご利用いただき、継続してケアをさせていただいているケースも有る。 また退所後のご家族のご相談にも応じている。中には、遺影の為に、写真データが欲しいと、お忙しい中足を運ばれる方もみえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し、日々の生活の支援に努めている。が、帰宅願望がみられたとき、なかなか敷地外まで、連れて行って差し上げることができない。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴など聞き取りをし、その人らしく生活して頂けるよう支援している。夕食時、梅酒をグラス1杯飲まれるのが習慣の方がみえそれを当ホームでも継続するケースもあった。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しバイタルチェック等をし、把握するよう努めている。又、趣味や本人のしたい事を大切にゆったりした生活の支援に努めている。 が、活動範囲が狭まっているため、下肢筋力低下と体重増加が課題になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを開催し、利用者ができる事出来そうな事、支援する事を意識して、サービス提供が出来るように話し合っている。 又、改善が必要状況の変化があったときは、その都度NS、リーダーを含めたカンファレンスを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングを行い、スタッフ全員、統一意識で支援できるよう、見直し等に生かしている。又、各書式の見直しをしより統一のしやすい使える書式の作成へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状態やご家族の状況に応じて、ご本人サイドで臨機応変に対応し、自由で、その人らしく、あたりまえの生活をして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、近所のスーパーに買い物、喫茶店など行くなどし、楽しみの支援に努め、又、地域ボランティアの方による、傾聴支援や近隣の大正琴の先生や生徒さんとの交流行っていたが、現在は、できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医の受診はもちろんのこと、月に2回、連携している、医師の往診を受けている。時には、ご家族と直接お話をさせていただき、今後の方針を立てることも増えてきた。老衰のご利用者様の最後、指示と対応していただき、落ち着いて看取ることができた。コロナワクチン接種も、ご利用者スタッフ共に計画的に行うことが出来た。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に4日、看護師が勤務しており、ご利用者の体調管理や薬の管理をしながら、指導等を適宜もっている。又、体調不良者が出たときは、急遽出勤して頂いたり、一時的に点滴が必要であった場合にも対応してもらっている。褥瘡の処置のため、看護師2人が連携して処置にあたってくれた。看取りの兆候が出た時点で連絡し、駆けつけてもらった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の生活相談員と連携を取り、情報収集に努め、退院後の対応を十分に取れる様取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしない方針であるが、継続的医療行為がなければ、Dr.、NS、家族との連携のもと、事業所で出来ることを十分に説明しながら、当ホームで最後を迎えられる方もみえる。だが、長期的に酸素、点滴など医療面にて対応が困難場合、又はその可能性が近い未来に高い場合、Dr.ご家族とも話し合い、対応可能な施設へ移っていただく判断をせざるおえない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習等に、全員参加することや、マニュアル等を使い訓練している。 当ホームも11年目を迎え、救急搬送する機会が増え、過去には、心停止をされたが、心肺蘇生法を行い、一時的に呼吸が戻り、救急搬送していただき、ご家族が病院についてから、息を引き取られるケースもあった。非常に残念な結果にはなってしまったが、これも、日頃から真剣に取り組んできた結果であったと思う。ただし、蘇生に至らずなくなったケースも発生したため、直面した職員のケアが今後の課題となる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は、防災訓練等に近隣地域の方に声かけをし、一緒に参加して頂き、ご協力とご理解を得ていたが、現在はできていない。 職員訓練や研修は行っているが、BCPIはできていない、現在検討しながら作成中。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や、羞恥心に配慮した声かけを常に心掛け、月毎にユニットごとにスローガンをかけ、実践している。また、新人など声掛けの出来無い者にもその都度、理解してもらうため話し合っている。が、ご利用者の中には、他の方を傷つける言動を、「それが常識でしょ」という形で行ってしまわれる方もみえる。我々はすべてを肯定的に受け入れるわけにはいかないことがある。その際、その方との信頼関係を崩さない、声掛け、対応を模索している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前にやられていた事、得意な事など、100の気づきシートを元に、支援出来ることを見つけ、ご本人サイドで働きかけている。 ただ、今までで出来ていたことが、できなくなってきてしまった方が増えてきている。傾聴し少しでも心に寄り添うことで対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のご様子や発言に耳を傾け、ご利用者サイドで楽しんで頂けるよう支援している。 また他の利用者様からも、その人らしさが傷つけられないよう、テーブルの位置、作業の位置、作業内容、活動時間をご本人たちな悟られないよう対応するように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自分で髪留め等、おしゃれしてリビングに出てこられたり、入浴後や洗面後に化粧水や、乳液にておしゃれをしてみえる方もみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から、進んでお手伝いをして下さり、談笑しながら、出来る事を無理なく、楽しく参加して頂いている。 好き嫌いを把握し、場合によってはその方だけ一品差し替えるなどし、好き嫌いの話題も楽しくお話していただく空気を作る。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月2回の体重測定や、毎回、排泄表などを利用して水分量をチェックする事で、その方の身体状況に応じた対応に努めている。一時的であれば、NSが点滴の対応もしている。食事形態も、固定することなく、できるだけおいしくて食べていただくこと、嚥下機能とのバランスを取りながら行っている。又、食事の保温機などはないため、おかずはあまり早く盛り付けすぎないようにし、お味噌汁は、配膳直前によそい、温かい状態で提供することがルールとなっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所まで、自己にて実施されるように見守り、個別に、見守りや確認、磨きなおしを行っている。又、口腔内の洗浄液や、洗浄器なども使用し、毎食後の口腔ケアの徹底している。必要に応じ訪問歯科に入っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで過ごせる事を基本に、それぞれにあった物を提案し、排泄パターンの把握から、声かけを行い促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療のアドバイスを元に、朝、夕、カスピ海ヨーグルトや、牛乳、センナ茶、カフェオレ、オリゴ糖等の提供を毎日、時間を決め行っている。 できるだけ、下剤等は利用したくないが、利用者に合わせ、Dr.と相談しながら薬も利用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望があれば、夜間入浴や、お友達と一緒の入浴等、支援しているが、現在、特に個別で希望する方がみえない。入浴拒否をするケースも、減ってきている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室にて自由に休息したり昼寝したり読書されておられ、又、時には足浴機の活用で気持ち良く眠れるように支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、服薬の資料が配布されており、フロアーやスタッフルーム等常時確認ができ、服薬時には、ダブルチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、あみもの、カラオケ、台所や洗濯等のお手伝い、テーブルに飾る花瓶に挿す花摘みの散歩、花瓶の毎日の水替えなど、楽しくやって頂く事で気分転換となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、外食、など、気分転換となる、外出行事の提供、又、お盆などお墓参り等、家族と連携した外出、今年度は行っていない。近所の神明神社に行く程度。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出をしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら、電話を使用したり、手紙を書いたり、時には、声かけで促したり、お手伝いさせて頂いて、ご希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とホール、又、カフェテラスを作り、団欒できる、スペースづくりをしているので、自由にその人が自己に合わせた、生活を自ら楽しんで頂くことができる。 また、一人になれるスペースも作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファに仲良しで一緒に座ったり、カフェテラスにて、日向ぼっこをしながら、談笑してみえる。ユニット間を行き来できるようにしている。 また、他の方から死角になるような一人になれるスペースも作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望により、ご本人が愛用されていた家具等を使い、ご要望に添い、安全面と介護面から見たアドバイスにてレイアウトし、穏やかな生活が出来るように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置や、段差の解消を図り、案内表示などを作成して、自立した生活ができるように配慮している。		